

2026

10.18

再処理工場は
動かない

使用済み核燃料の
行き場はないぞ！

原発つづける

ための

使用済み核燃料を
ふやす原発
やめよう

乾式貯蔵No!

全国集会@高浜

■10月18日(日)

13:30~15:00

※集会後デモ(解散16:30)

各地からの報告と発言

- 再処理工場は完成しない
- 中間貯蔵施設はひきうけない
- 乾式貯蔵施設の設置をゆるすな

■場所：高浜町文化会館

※裏面地図

自然エネルギーへ
転換しよう



ブログ
老朽原発うごかすな！
実行委員会

主催：老朽原発うごかすな！実行委員会 Tel090-1965-7102

原発延命策・使用済み核燃料の乾式貯蔵を阻止しよう！

原発を運転すれば発生する使用済み核燃料は、発生直後には、膨大な熱と放射線を出しますから、燃料プールで水冷保管しなければなりません。そのプールが満杯になれば原発を運転できなくなるため、電力会社や政府は、放射線量と発熱量が減少した使用済み核燃料を乾式貯蔵に移して、プールに空きを作ることに躍起です。

乾式貯蔵を許せば、原発の運転継続を許すことになります。逆に、乾式貯蔵を阻止すれば、原発を停止できます。原発全廃が決定するまでは、原発延命に繋がる乾式貯蔵を許してはなりません！

関西電力（関電）は「使用済み核燃料の福井県内での乾式貯蔵」に布石

関電は、1996年に「使用済み核燃料は福井県外に搬出する」と福井県知事に約束していますが、未だに搬出先は見出せず、約束反古を繰り返しています。

関電は、2023年10月にも、完成の見通しもない再処理工場（青森県）の活用を盛り込み、近々使用済み核燃料の福井県外搬出が可能であるかのように見せかけた「使用済み核燃料対策ロードマップ」を発表しました。

関電は、この「ロードマップ」で、「使用済み核燃料搬出の円滑化のために原発構内に乾式貯蔵施設の設置を検討する」とし、福井県内での乾式貯蔵に向けての布石を打ち、今、施設の設置に向けて、立地自治体の容認を取り付けようとしています。

使用済み核燃料の行き場はありません

関電は、乾式貯蔵に移した使用済み核燃料の搬出先として再処理工場の稼働を願望していましたが、2024年8月、同工場が27回目の完成延期を表明したため、搬出先を失いました。乾式貯蔵を許せば、使用済み核燃料の福井県内での永久貯蔵になりかねません。

関電に、約束を完全履行させよう！

再処理工場の完成延期発表を受けて関電は、「ロードマップを2024年度末までに見直す。実効性のある見直しができなければ、老朽原発を運転しない」と、その場しのぎの約束をしました。しかし、関電は、「実効性のあるロードマップ」を示せなかったにも拘わらず、約束期限（昨年3月末）が過ぎた現在でも、老朽原発を稼働させ続けています。約束反古を許してはなりません。

原発は、不正なしには動かせない設備です

関電の使用済み核燃料に関する「嘘、詭弁」「約束反古」や本年1月に発覚した中部電力の「耐震設計データのねつ造・改ざん」が示すように、**原発は、「嘘、詭弁」「約束反古」「データねつ造」などの不正なしには動かせない設備**です。

原発のない明日を実現しよう

2025年度に原発で発電された電力量は、国内で必要とされる全電力の10%以下です。たかが10%の電力を得るために、過酷事故に至りかねず、行き場のない使用済み核燃料を残す原発を、膨大な資金を費やして、稼働させているのです。**この程度の電力は、自然エネルギーなどの再生可能エネルギー（再エネ）の活用で容易に賄えます。**

今、世界は、脱原発、再エネ利用に向かっていきます。2025年に世界で導入された再エネによる発電容量は大型原発692基分に相当し、世界で稼働している原発436基での発電量を大きく上回っています。一方、日本では、原発を拡大し、再エネ利用には消極的です。

使用済み核燃料の「乾式貯蔵」を阻止し、それを突破口に、老朽原発廃炉、原発全廃を勝ち取り、自然エネルギーのみで成り立つ明日を実現しましょう！

■ 高浜町文化会館・会場地図

▶カンパのお願い◀
「10.18 集会」へのご支援をお願いいたします

【郵便振替】
〈口座記号・番号〉
00990-4-334563
〈加入者名〉
老朽原発うごかすな！実行委員会

